

読売新聞 きょう（10月20日）のイチ押し

1・3面 医療物資の供給網強化 日ベトナム

初の外遊でベトナムを訪問している菅首相が、同国のグエン・スアン・フック首相と会談し、経済連携を強めることで合意しました。防衛装備品の輸出などを可能にする協定でも実質合意に達しました。安全保障面の協力強化で、地域で影響力を強まる中国をけん制する考えです。

- ★ 新型コロナウイルスの感染拡大では、中国に生産を依存するマスクや自動車関連部品の供給が滞りました。経済連携では、医療物資の供給網強化などを進めていくことになります。
- ★ 首脳レベルの要人との外交交渉をほとんど経験したことのない菅首相にとって、外交デビューとなりました。首脳会議や政策スピーチを淡々とこなし、まずは無難なスタートになったようです。

関西経済面 ビジネス潮流 オフィスは進化するか⑤

需要が高まっていた大阪市のオフィス市況が、新型コロナウイルスの感染拡大でテレワークが広がり、曲がり角を迎えています。感染防止と業務の効率化を両立するための企業の取り組みを紹介しています。

- ★ 大阪市内でオフィス需要が高まったのは、リーマン・ショックから立ち直った2010年頃からです。近年は超高層ビルの建設ラッシュが進んでいました。それがコロナ禍で一変し、空室率も上昇しています。
- ★ 情報漏洩を防ぐ意味から在宅勤務の難しい企業も多くあります。りそな銀行では、支店の会議室などに分散型のワークスペースを設け、自宅に近い支店で仕事をするように行員に促しています。

他紙と比べて

連載「検証コロナ～次への備え」の第2部がスタートしました。夏に襲来した新型コロナの「第2波」で、春先の第1波の教訓が生かされたのか、残された課題は何か。国や自治体の対応を検証し、問題点と解決策を考える連載です。こうした企画は、幅広い取材網を持つ新聞ならではの取り組みです。